



まったものの、残りの3回をいかに意義のある授業にするか？飽きられずに、しかも実力が付くようにするにはどうすればよいのか？さらにこれを落とした学生は8単位を失うことになる。従っていかに学生を休ませないようにするか(卑屈な言い方になるが、「いかに学生に嫌われないようにするか？」という言葉まで出たような気がする)？

以下、ロシア語のことに限って書いていこう。まず実力を付けさせるということでは、当然、小テストをする、ということ考えた。今までの週2回の一般コースでは文法項目をこなすだけで、とても小テストをする時間がとれなかったが、このコースでは1課終わるごとにテストをし、その段階で学生に復習をさせることができた。

学生を休ませないようにするという点では、ロシア語の場合には、特殊な事情があった。それは、ロシア語を第1希望とする学生だけでは、定員を満たすことができず、第2希望、あるいは第3希望の学生まで加わるようになったということだ。ロシア語の難解な文法をそれを望まなかった学生にまで教えなければならぬのだ。

これに対しては、いつものクラスでも行っていた、カードを使って、学生とのコミュニケーションをはかるという方法をとりあえず採用した。第1回目の授業の時に、カードを配り、名前、ロシア語を志望した理由、授業に対する要望、その他などを書かせる。そして、これを毎回授業中に返し、質問、意見などを書いてもらうのである。一般のコースでは、このカードは毎回返す(出欠をとる代わりに)だけであったが、集中のコースでは、これを問題を解く学生を決めるために使った。全員のカードをよくきり、練習問題をやるときに、そこから1枚引いてその学生を指名するというやり方である(最後の授業の時に書いてもらった感想に、これが緊張感を与えて良かったというのがあった)。質問は本来は、手を挙げてもらう方が他の学生のためにもなってよいのだろうが、そういうことが苦手な学生もいて、このカードに質問が書かれていることが多かった。また、この方法で出てくる質問の中に、私が言い漏らしたポイントをついたものもあって、そういうものは次の授業で説明することにした。

これ以外に実行したことといえば、ときどきロシア語を使ったゲームを行ったことである。私はこれもロシア語の実力を付けるためにいろいろ工夫してみたのだが、学生の反応は、「ロシア語に親しむためにはよかった」というものが多かった。

さて、初めに、ロシア文化履修コースに進む学生を増やしたいというの隠れた目標であるということを書いたが、その結果はどうであったか？残念ながら、ロシア文化を専攻する学生の数は、このコースを始める前とほとんど変わってはいない。その代わりに、専攻ではないが2年生になってもロシア語の学習を続ける(必修ではないのに)という学生は大いに増加し、研究室は、そういった他のコースの学生も来るようになり、大いににぎわっている。それとともに、1年生で初修外国語の単位を取ってしまうので、2年生の時に第3外国語を履修する学生が増加した気がする。当面、他のコースの学生にどのような形でロシア語を教えるかということが課題となりそうである。

さて、最後に、全く私が予想しなかった事態も起こったので、そのことを書いてこの報告を終えたいと思う。それは、集中外国語のクラスが、まさにクラスとして機能したということである。いや、正確にはそれ自体はある程度予想していたことで、予想を超えたのは、そのために、集中のクラスに出るということが、友人に会えるということとイコールになり、それが学生にとって1週間のリズムを作るのに役立ったということである(集中の授業があるから、学校に行こう、その前の授業にも出ようという形で)。今年は、特に私の方もこのコースに慣れたこともあり、コンパの回数は5回を数え、学生同士が分かかれがたく思っている今日この頃(2月)である。